

遼寧省質量技術監督局向け真贋判定事例セミナー
結果報告

2006年12月19日
IIPPF事務局（ジェトロ）

1. 日時：2006年10月27日（金） 8:30～12:00
2. 場所：遼寧省瀋陽市 凱賓斯基飯店 3階 AB庁
3. 主催：日本貿易振興機構・中国日本商会・遼寧省質量技術監督局
4. 共催：中国国際貿易促進委員会遼寧省分会・中国国際貿易促進委員会専利商標事務所・国際知識産権保護フォーラム
5. 目的：遼寧省質量技術監督局（TSB）関係者の年度報告会議の一部時間を使い、取締担当向けに日系企業の模倣品被害の現状を直接訴え、もって日系企業各社の同省での連携・協力を摸索することを目的とする。併せて各社の模倣品も会場内に展示し、直に真贋判定方法を説明する。
6. 参加者：中国側 37名
日本側 13名（事務局含む）
7. 次第：①中方挨拶：中国国際貿易促進委員会遼寧省分会 会長 張汝明
②日方来賓挨拶：在瀋陽日本国総領事館 領事 川端章義
③日方挨拶：ジェトロ北京センター知財部 副部長 秋葉隆充
④日系企業プレゼン（6社）
豊田汽車技術中心（中国）有限公司
マツダ自動車北京事務所
索尼（中国）有限公司
欧姆竜（中国）有限公司
兄弟（中国）有限公司
YKK（中国）投資有限公司
⑤展示品説明会（休憩時間 20 分間で展示品持参 4 社が担当者に説明）
⑥意見交流会
⑦中方挨拶：遼寧省質量技術監督局 副局長 田力氏
8. 結果概要：
 - ・ 会議冒頭、国貿促遼寧分会の張会長より、遼寧省と日本との貿易関係や日系企業進出など親密な関係を強調。投資環境強化の面からも知財保護に力を入れるよう、質量局側に要請。
 - ・ 各社が模倣品被害状況や真贋判定方法をプレゼン。時間厳守でスムーズな発表がなされた。プレゼン終了時、発表内容への景品付きクイズを行うなど、参加取締官を積極的に参加させるべく発表に工夫。

- ・ 休憩時間に会場に設けた日系企業 4 社の模倣品展示ブースにて、取締担当官へ直に現物を前に真贋判定方法などを説明。

- ・ 最後の田力副局長のコメント要旨は以下の通り。

本日は、中日双方にとって緊張しながら、実に有意義な時間。日系企業 6 社からは製品真偽、製品ラベル、製品実物などについて詳しくご紹介して頂いた。会議と休憩時間中、双方交流ができ、当局はいろいろな情報を得ることができた。

中央政府は多年に渡る東北振興政策を推進中。遼寧省党委および省政府幹部は、知財保護を重視。政府としてはいろいろな措置を取り、様々な形で遼寧省にある外資系企業が生産した製品を保護している。T S Bは生産、市場の秩序を規範化し、製品の品質を保護し、経済秩序の整頓と規範化に力を入れているので効果は出ているのではないかと。

遼寧省の発展はいい方向に前進。これはT S Bの努力のみならず、政府や日本側投資者なども大いに貢献している。この場を借りて、日側に感謝の意を表す。東北を全面的に振興し、製品の品質戦略を遂行して、効果的に知財保護を行うため、今後も「知的財産権保護行動綱要（2006-2007年）」の要求に応じ、知財保護を強化し、イノベーションを保護するとともに、製造地、製造業者を詐称する企業或いは個人、国内外企業の製品を模倣した企業或いは個人に対して、質量技術監督局は関係部門と協力し、共同で生産委託業者が製造した模倣品の取締りを行い、遼寧の経済発展、経済秩序の整頓、そして調和のある社会の構築に貢献していきたい。

今回のセミナーを通じて企業 6 社に対する理解が深くなった。今後も継続してこのようなセミナーを通じて、いい意見を希望。現在遼寧省・市レベルでは、知財侵害の通報番号やクレームセンターなどが設置されている。活用を期待。

日系企業から新製品情報や真偽鑑定方法、鑑定ツール、設備などの提供があれば、鑑定方法を共有することが可能。連携事業を展開することが期待され、連携方法を模索していきたい。

10. アンケート結果

- ・ 総合評価：4段階中上位2項目96%（有効回答数27）
- ・ 今後のセミナー継続性については100%が「必要」との回答。

以上

陝西省質量技術監督局向け真贋判定事例セミナー
結果報告

2006年12月19日
IIPPF事務局（ジェットロ）

1. 日時：2006年11月15日（水） 14:00～20:00
2. 場所：陝西省西安市 香格里拉金花飯店 1階 BC庁
3. 主催：日本貿易振興機構・中国日本商会・陝西省質量技術監督局
4. 共催：中国国際貿易促進委員会専利商標事務所・国際知識産権保護フォーラム
5. 目的：陝西省質量技術監督局（TSB）関係者の年度報告会議の一部時間を使い、取締担当担当者向けに日系企業の模倣品被害の現状を直接訴え、もって日系企業各社の同省での連携・協力を摸索することを目的とする。併せて各社の模倣品も会場内に展示し、直接真贋判定方法を説明する。
6. 参加者：中国側 106名
日本側 25名（事務局含む）
7. 次第：①中方挨拶：陝西省質量技術監督局検査局 副局長 王慧元
②日方来賓挨拶：在華日本国大使館 一等書記官 小林浩史
③日系企業プレゼン（12社）
本田技研工業（中国）投資有限公司
電装（中国）投資有限公司上海技術中心
豊田汽車技術中心（中国）有限公司
マツダ自動車北京事務所
オムロン（中国）有限公司
松下電工（中国）有限公司
東陶機器（中国）有限公司
佳能（中国）有限公司
愛普生（中国）有限公司
卡西欧（上海）貿易有限公司
兄弟（中国）有限公司
YKK（中国）投資有限公司
※ヤマハ発動機とオリンパスは発表無しのオブザーバー参加
④展示品説明会（休憩時間 20分間で 10社が担当者に展示品説明）
⑤意見交流会・質疑応答
⑥中方総括：陝西省質量技術監督局検査局 副局長 王慧元
⑦交流会：香格里拉金花飯店 1階 AB庁
8. 結果概要：
 - ・ 司会は CCPIT 専利商標事務所の孟副所長が担当。時間管理や発表のスピードなど進行管理に留意。

- ・ 展示説明会では、予定の 20 分を超えてもなお質問する取締担当者がおり、30 分近くの説明。
- ・ 王副局長は、参加者に対しこの研修は実務に役に立つ為、真面目に受講するよう指示。
- ・ 参加企業 A 社は、早く現地入りし市内の市場調査を実施。13 店舗で自社の模倣品を販売していた等の情報をプレゼンや展示品説明会にてコメント。翌朝のレイドを提案。実際に翌朝 10 時からレイドを実施。地元テレビ局も取材に来る大々的なものとなった。後日フォローの報告もあり、今回のセミナーの成果の一つ。

10. アンケート結果

- ・ 総合評価：4 段階中上位 2 項目 90%（有効回答数：82）
- ・ 今後のセミナーの必要性については、99%が必要との回答だった。

以上